

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制総合学科、単位制の仕組み、工業の施設・設備を活かし、基礎学力の定着と生きる力を育む教育課程を編成する。 ・ 多様な生徒の学習ニーズに応える柔軟できめ細やかな学習支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒の特性等を考慮した履修指導、学外学修指導を行うとともに、閉課程に向けて教育課程を整備する。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、個別最適な学びを組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの単位修得につながる履修指導、学外学修指導を組織的に行う。 ①閉課程を見据えて、見通しを持った学習ができるよう時間割・履修指導計画の整備を行う。 ②ICTを有効活用し、個に応じた丁寧できめ細かな教科指導を行い、組織的に授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①個に応じた履修指導、学外学修指導を行い、単位修得につなげることができたか。 ①令和7年度の時間割整備、履修指導計画の整備を行えたか。 ②生徒による授業評価において「授業の在り方」で80%以上が肯定的な意見であったか。 ②研究授業・校内授業改善研修会を計画的に実施できたか。 					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒にとって安心、安全な教育環境の確保に努め、生徒の自己実現に向けたきめ細かな支援の充実を図る。 ・ 生徒の発達段階等を考慮して可能な限りの合理的配慮を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの課題を早期に発見し、生徒の能力が最大限に発揮できるよう環境の整備を行う。 ②特性に応じた適切な支援教育を関係機関と連携しながら積極的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動、学校外の学修等あらゆる機会を通し、地域の方や同年代の高校生との交流機会を増やす。 ①生徒一人ひとりの課題の改善や環境整備に対する取組を組織的にを行い、支援教育の充実を図る。 ②セルフチェックにより、生徒が自己理解を深め、教員が生徒の心身の状態を把握できるよう取組む。 ②特別な支援や配慮が必要な生徒へ、外部機関と連携し、学校生活の充実と適切な進路に繋がるように支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員間の情報共有が適切に行われたか。 ①環境整備、支援教育を充実させられたか。 ②セルフチェックにより、生徒の心身の状況把握ができたか。 ②支援が必要な生徒に対して、外部機関との連携が適切に行われたか。 ②特に、支援が必要な生徒について、キャリアガイダンスPTにおいて、その役割を果たすことができたか。 					
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が必要な生徒の多様な進路支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりに応じた進路指導・支援体制 	<ul style="list-style-type: none"> ①新設PTにより、生徒の実情を把握し、引き続き 	<ul style="list-style-type: none"> ①就職を希望する生徒の内定者および継続的に就職 					

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	・生徒の実情に合わせたキャリア教育を推進し、社会生活実践力の育成を図る。	を維持・強化し、希望の進路実現を図る。 ②発達の特徴を考慮し、的確な進路提案が行えるよう体制の整備を組織的に行う。	個に応じた進路指導・支援を行う。 ①改訂した進路の手引きを活用し、新設PTを軸に組織的な進路指導・進路支援向け体制を整備する。 ①職業観育成のため、学校外における学修等への参加を積極的に呼びかけ、事業所見学等により生徒が主体的に進路活動に取り組む環境を整える。 ②特別な支援を必要とする生徒への対応を組織的に行い、SSW・SC、医療機関・療育センター・就労移行支援事業等の外部機関とも積極的に連携する。	活動を行っている生徒が合わせて80%を超えたか。 ①進学を希望する生徒の80%が志望分野への進学決定ができたか。 ①新設PTによる連携が円滑に進んだか。 ①就業体験等への対外的活動の参加者が増加したか。 ②組織的に就労支援等の福祉領域における支援が行えたか。					
4	地域等との協働 ・地元企業、地域の支援機関との連携強化を図る。 ・情報発信を通して、地域社会との連携を強化する。	①地元企業、就労移行支援事業所等との連携強化を図る。 ②本校の活動報告等を地域または保護者・中学生等にPRする。	①地域の事業所等と連携し、インターンシップ、オープンファクトリー、就労移行の体験等への参加を呼び掛ける。 ②本校の教育活動をホームページ等で積極的に発信、更新し広報活動につなげ、本校の魅力を発信する。	①地域の事業所等の体験的な取組みへの参加状況がどうだったか。 ②活動情報を積極的かつ速やかに更新し、学校見学や学校説明会の参加者が増加したか。					
5	学校管理 学校運営 ・校内設備や備品を適切に管理し、安全教育、環境教育の推進を図る。 ・全職員の資質向上を図るとともに、風通しの良い職場づくりを目指し、教職員の事故や不祥事を未然に防止する。	①定期的に施設設備の備品管理・保守点検を行うとともに、非常時・緊急時の対応の意識向上を目指す。 ②事故防止に向けた、定期的な研修を行い、不祥事防止を徹底する。	①定期的に施設点検管理の実施、安全点検を行う。 ①非常時・緊急時に対応できる体制づくり、地域と連携した訓練等を行い防災意識の向上を図る。 ②私費会計の事故防止を徹底する。	①教室や実習室などを中心に適時的に備品設備の点検などを実施できたか。 ①様々な緊急時を想定した災害について意識向上につなげることができたか。 ②私費会計基準に則った適切な処理を行い、不適切な事案はなかったか。					